



さあ、自分自身の自立への道を拓いていこう！

今までになく暑い夏が続いております。平素は、聖母の小さな学校の教育にご協力いただき、ありがとうございます。ここで学ぶ子どもたちやその保護者と共に、深くお礼申し上げます。

いよいよ2学期が始まりました。1学期中に3名が中学校へ復帰しましたので、4名でのスタートになります。さて、この夏休み、本校では生徒たちの希望に添い、登校日が10日ありました。彼らが学びの中で得た力を持っての発言でしょうが、「自分の現実を避けないで見るできるようになりました」と言った生徒がいました。「自分の現実を見る」というのは、困難な状態にある生徒にとって、なかなか難しいことです。例えば、中学校1年から不登校になったこと、人に会うのはとても苦しいこと、自分はもう学齢期を過ぎていて、他の人はとっくに就職していたり、大学等に進学していたりすること。一般の社会基準から言うと、取り戻せないほど遅れている自分。将来はないに等しいような現実を見ることはできません。今までの小さな日々があって、「自分の現実」を「自分のありのまま」として「見る」力が育ったのだと思います。そこには、まぎれもない「本当の自分」がいます。そして彼は「先生、先が少し見えてきた」と言って微笑みました。高校進学を希望しているようです。そして、「この現実」から、どのようなプロセスを踏み、自分を成長させていくかを考えたのでしょうか。「40日休みが続くと、生活のリズムが崩れてしまう。だから、登校日が欲しい」と、そして、教師である私たちも、その事を望んでいました。人間の成長に向けて一致した瞬間です。教える側と受ける側が本当に力を合わせることができます。そしてそこには、結果＝生活のリズムが崩れたとか、生徒が休んだとかは問題ではありません。そのプロセスを歩むことだけが意味を持ちます。

そんな登校日の中で、生徒が一つ体験したことがありました。朝のホームルームの中で、生徒がそれまでの自分の1日の生活記録を報告する場面があります。その生徒は、登校日前日は昼夜逆転の生活でした。リズムを崩さないように努力をしているだけに、報告をためらいました（マイナスの自分を見せない！）。しかし、事実は事実です。自分で受け止めねばならない！意を決して、ありのままを述べました。その時、誰も、〇〇君そのもの（人格）を否定しませんでした。その生徒の中には、事実を認め、自分を肯定する快さがありました。互いに「誰も私を否定しない」という実感を持った瞬間でした。それぞれの困難を生きている者同士だからこそできるピュアで貴重な体験です。その時、心の中に生まれた感情（うれしい、安心、ほっとする 等）こそ、人を信頼する方向に私たちを向かわせます。生徒たちは、明るくなりました。そして、夏休み中盤、生徒＝「先生、夏休みじゃないみたい！」。私＝「先生も休みが欲しい！」。皆で大笑いしました。

さて、2学期もその生徒一人ひとりの状態をつかみ、生活を整え、社会に出向いて行くプロセスを生徒と共に作っていくこととなります。「家から出にくいと訴える生徒」「人が怖いと訴える生徒」「自分がどうしていいか分からなくて困っている生徒」…様々です。保護者も子どもが学校に行けなくなって、どうしていいか分からない、と言って自分を責める、また、子どもの生活が乱れて混乱の中に入っていく様子を見て収集が付かなくなります。自分の子育てが悪かったのかと自分を責めてしまいます。（保護者には、個人面談、保護者会等を通して混乱を整理したり、子どもの気持ちがつかめたり、子どもとの関係が作れるように支えてゆきたいと思います）。生徒、保護者と共に小さなことを大事にした生活をしながら、それぞれ自身のプロセスを歩めるよう導きたいと思います。

2学期も毎月、保護者会があります（第4金曜日）。どうぞご参加ください。また、多くの方々に授業等でお世話になります。今学期も、どうぞよろしくお願ひいたします。

<2学期の特別授業>

・華道、体育、数学、陶芸、英会話、校外学習（歴史）、ウズベキスタン文化、ギター

<2学期の主な行事>

10/12（土）スポーツフェスタ2024（体育祭）

11/23（土・祝日）親子バス遠足

12/7（土）（予定）親子料理教室「ウズベキスタン伝統料理」